

3. スクランブリング（大塚、中道）

- (1) ルートの概要と行程計画
- (2) ガイド登山の検討
- (3) 登攀に必要な技術
- (4) 行った訓練
- (5) 装備（以上、大塚）
- (6) 日程、メンバー及びその変更
- (7) 実行第1日
- (8) 実行第2日
- (9) 評価（以上、中道）

(1) ルートの概要と行程計画

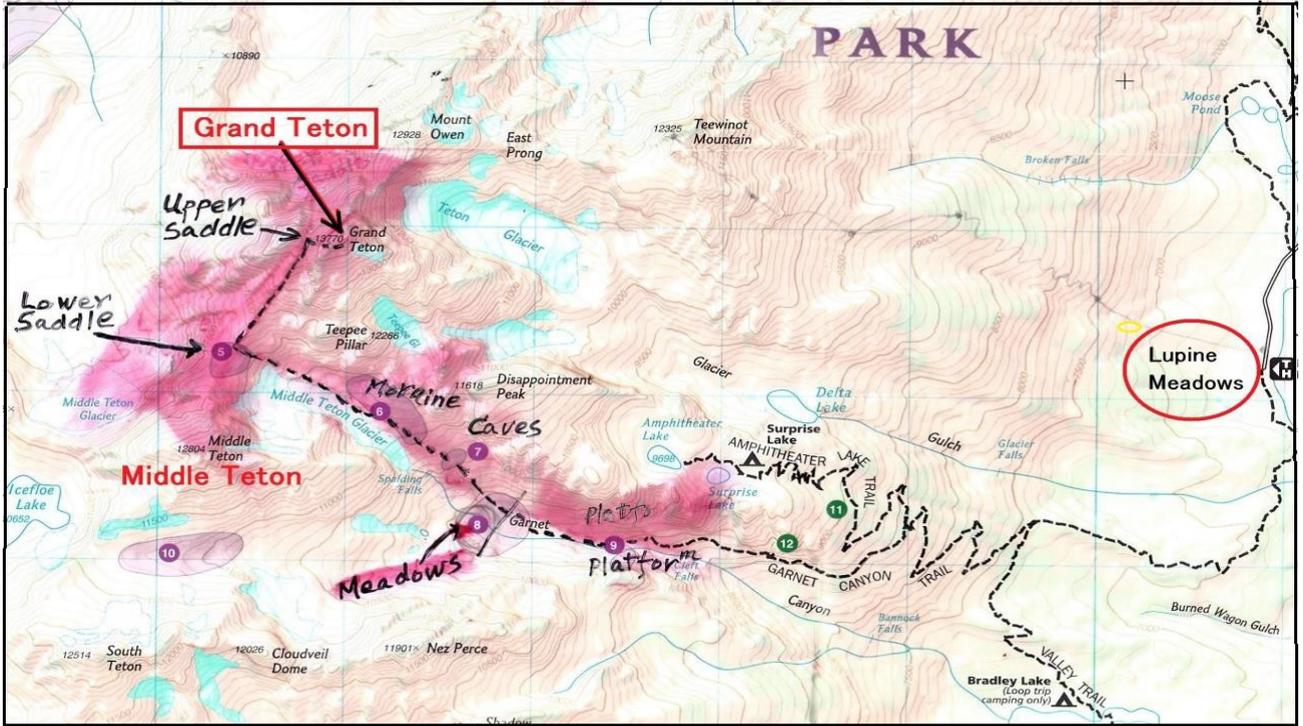
グランド・ティートン連山の主峰である Grand Teton 峰(13,770ft、以下 GT と略)には、バリエーションルートも含めてヨセミテデシマル (YSD) 5.4 から 5.11 クラスまでの多くの登攀ルートが設定されている。今回我々は、ガイドレスでの登頂を目指したこと(ガイド登山については「(2) ガイド登山の検討」参照)、登攀時期が6月末であるので岩場にも残雪と氷が残っている可能性が高いこと、3人パーティーであるので岩場でのロープ登攀時間なるべく短時間で登れるルートであること、よって、結果的に易しいルートであることなどから、Grand Teton 峰登攀ルートでは一番簡単であるとされている“Owen-Spalding”ルート (YSD5.4、一部 5.6) を選ぶこととした。ほぼ同様のグレードでは“Exum Ridge” (同 5.5) があり眺望もより優れてはいるが、Owen-Spalding の方が Grand Teton 峰登攀のベースルートとされているので、こちらを採用することとした。

このルートの登山口は Jenny Lake 南側の Lupine Meadows Trail Head で、ここから Garnet Canyon に入り、Canyon 中ほどの Meadows を経て GT 峰と Middle Teton 峰(12804ft)の鞍部である Lower Saddle に登り、そこから GT 山頂と Enclosure 峰との間の鞍部である Upper Saddle を経由して GT 峰の西面の岩場から山頂に登るルートである。このルートの核心は Lower Saddle から上部、特に Upper Saddle から山頂間の岩場であり、多くのチムニーやピナクル、ベリーロール、クロールと呼ばれる巨大なフレーク (large detached flake)、キャッツ・ウォークと呼ばれるランペなどの岩場が連続しロープ確保が必要である。また、下山時に懸垂下降 36m(50m ロープ 2 本連結が必要)がある。

ルート地形図、ルート鳥瞰図を以下に示す(無雪期)。ルート詳細は「資料3 グランド・ティートン登頂ルートについて」参照。

[引用出典] 地形図=*Trail Illustrated Map, Grand Teton National Park* : National Geographic、
Grand Teton 周辺写真=*Best Climbs Grand Teton National Park* : FALCON GUIDE
ルート全体図=Google Earth 衛星画像にルート・地点名を大塚が加筆

上部ルート全体図=Best Climbs Grand Teton National Park:FALCON GUIDE



Middle Teton, Grand Teton, and Mount Owen from the East





Grand Teton from the Lower Saddle



次に行程計画について記す。現地のガイドブックやガイド会社によると、このルートの登攀日程は、下記の1泊2日間で通常であり、多少時間的余裕をみて2泊3日間も採用されているらしい。

第1日目：Lupine Meadows Trail Head⇒Lower Saddle(泊)

第2日目：Lower Saddle⇒Upper Saddle⇒Summit⇒そのままLupine Meadows Trail Headへ下山
GT登攀は大部分がガイド登山であり、その場合にはUpper Saddleにあるガイド会社の山小屋に泊まり、またロープなどのクライミングギアは全てガイド側で歩荷・提供されることから顧客の荷物は少なく、また済みその分足が捗るというメリットがあるのに対して、ガイドレスの我々はクライミングギアを含む衣食住の全てを歩荷しなければならないこと、年齢も高年組(平均年齢71歳)であること、上記の日程は元気なアメリカの若者を対象にした日程であろうことなどを考慮して、以下のように十分な余裕を持たせた日程計画を策定した。

第1日目：Lupine Meadows Trail Head⇒Platforms 又は Meadows Campground(泊)

第2日目：Platforms 又は Meadows Campground⇒Lower Saddle(泊)

第3日目：Lower Saddle⇒Upper Saddle⇒Summit⇒Upper Saddle⇒Lower Saddle⇒下山

(体力の残り具合によっては、第3日目にLower Saddle泊。この場合には下山は第4日目となる)。

(2) ガイド登山の検討

マウントレニアの登攀で検討した時と同様に、グランド・ティートンの登攀でもガイド登山の可否を検討してみた。グランド・ティートン国立公園の登山ガイド会社は2社あり、何れも50年以上の歴史を持っており、ガイド登山、クライミング教室など多くのコースが設定されている。自前の山小屋をローサドルなどに持っているの、ルートによってはこの山小屋に宿泊できる。

米国の他のガイド会社と同様に、ロープなどのギア類やテント、炊事用具などはガイド会社側で用意するが、個人装備や食料は顧客が持参・歩荷することになっている。ポーターなどは無い。また、ガイド登山に先立って技術教程のコースを受講するか、または技術教程を含んだガイド登山コース(instructional climb)に参加しなければならないことも米国の他地域のガイド会社と同様である。

技術教程コースの期間は通例2日間であるから、遠征期間を2週間とした我々にはこの2日間を捻出する時間的余裕が無い。また技術教程込みのガイド登山は非常に割高となる。その上、今回選んだOwen-Spaldingルートのグレードはysd5.4~5.6(日本式でいえば5.6~5.8)程度であるから、クライミング技術そのものはガイドレスでも問題無いと思われた。(心情的には、“この程度”の山を厳冬期でもないトップシーズンの夏季に登るのに、何故ガイドが必要なのかというあらぬ自尊心が作用した面が大きかった。この自負が結果的に敗退を齎したともいえよう)。

しかし、こちらの岩場のルートには日本のようなペンキ印がある訳ではないから、果たして正しいルートを辿れるかどうか？、また、シーズン初めなので雪渓(氷河)歩きが多いのであるが、ヒドゥン・クレバスなどをガイドレスで避けることができるかどうか？、さらには万が一の場合にレスキューを呼べるかどうか？等々不安要素は残った。

しかし、まだシーズンが始まったばかりで、天候やルート状況が不安定な時期であるから、現地に行ってみなければ、登攀の確実な日程が決められないという事情もあった。ガイド会社はマウント・レニアの例でも見たとおり、相当前から予約しておく必要がある。

以上のようなことをモロモロ考慮した挙句、グランド・ティートン登攀でもガイドレスで行こうという結論に達したのである。ガイド登山については、「資料4 グランド・ティートン登頂におけるガイ

ド活用について」を参照願いたい。

(3) 登攀に必要な技術

Owen-Spalding ルートは上述したように YSD グレードで 5.4~5.6 であるが、同じグレードでも一般的にアメリカで設定されているグレードは日本で使われるそれに比べて 0.1~0.2 程度グレードが高い。よって、Owen-Spalding ルートの“5.4~5.6”は日本の慣例では“5.5~5.8”程度と考えるべきであろう。また、今回の登攀時期が 6 月末であることから、岩場が氷結していたり残雪が残っている可能性が高いことから、従って、Upper Saddle より上部の 5.6~5.8 とと思われる部分 (Sargent's Chimney 出口より頂上までのスラブを除いた大部分)、及び念のために Lower Saddle~Upper Saddle 間の Eye of the Needle 付近、小スラブ付近、及び黒い岩付近、並びに急な雪渓上では全てロープ確保が必要と判断した。

従って、クライミングの技術としてはトップの確保、フォロワーの確保、また、ミドルで登る場合のユマーリング技術、下山時には Lower Saddle 上部での懸垂下降(36m、50m ロープ×2 本結束)、また、情報によれば、このルート上にはクロールにある 1 本のピトン以外には人工の支点は全く無いので、カム・ナッツ類による支点作成、ピナクルや岩角に長いシュリングを巻き付けた支点作成、懸垂下降の支点作成、雪渓上でのスタンディング・アックス・ビレー、ミックスクライミングなどの登攀技術が必要と考えて、アメリカへ出発前に国内で次項のトレーニングを行った。

(4) 行った訓練

①岩場でのトレーニング

ア. 場所・回数

湯河原・幕岩 (悟空スラブ) 4 回、広沢寺の岩場 1 回、日和田山の岩場 1 回

イ. トレーニングの内容

確保技術、ロープワーク、懸垂下降、チムニー登攀、ナチュラルプロテク

ション(カム、ナッツ類)のセット法、シュリング+岩角巻き付け支点の作成、マルチピッチ・クライミング、ユマーリング等。

以上は、クライミングシューズではなく、GT 現場で履く予定のトレッキングシューズ(ロックシューズ)で行った。

②雪渓上でのトレーニング

ア. 場所・回数

谷川連峰土合・ロープウェイ下駅周辺の雪渓 1 回

イ. トレーニングの内容

スタンディング・アックス・ビレー、スノーバーによる支点のセット、雪渓登攀、雪渓上での懸垂下降、ユマーリング等。

なお、ミックスクライミングはタイムアウトのため行えなかった。

(5) 装備

クライミング装備は出来るだけ軽量化を図るために、数量・種類をギリギリまで削減することとし、下記の方針で準備した。

①ロープ：Lower Sddlle 上部での懸垂下降距離が 36m あるので*₁、メインロープ φ9.5×50m 1本に加えて φ9.0×50m 1本、計2本を持参する。

(注*₁)懸垂下降は、懸垂支点の場所を変えれば 20m×2回の切り替えし懸垂で下降することも可能ではあるが(従ってロープは1本で済む)、その場合には支点をシュリングでピナクルに作成しなければならないこと、及び切り替えしの場所が狭い上に浮石が多いので、ここに3人同時に立つことは非常に危険と判断してこの案は棄却した。

②カム、及びナッツ類はサイズの選択に迷ったが、現場写真などから判断して、1～3インチのサイズを用意した。

③クイックドロウやカラビナはできるだけ3人で共用することにして、数量を少なくした。

④シュリングは、ピナクルや岩角に巻き付けて支点を作る場合が多いだろうと考えて長いシュリングを用意した。出来上がり長さ 200cm を用意したが、実際にはこの程度の長さでは足らなかった。

⑤靴は持参重量を減らすために、クライミングシューズ(フラットソール)の持参は割愛し、クライミングゾーンのソールが付いたトレッキングシューズ(ロックシューズ)1足でアプローチ、雪渓、岩場全てをカバーすることとした。

持参したクライミング用品の装備表(3人分)は次ページのとおりである。これ以外に各人ピッケル、12本爪アイゼン、ハーネス、ヘルメット、確保器(下降器は確保器と兼用)、確保用手袋等を持参し、テント、シュラフ、マット、食料、衣服類等の一般登山用具は「全員登頂の山」と同じ物を使用。

#	装 備	規 格	数 量	重 量 g	備 考
1	ロープ	φ9.5×50m (シングル仕様)	1	3,500	
2	〃	φ9.0×50m (ダブル仕様)	2	2,500	懸垂時結束用
3	カム(キャメロット)	#0.5	2	320	各カラビナ装着
4	〃	#1	2	400	〃
5	〃	#2	1	225	〃
6	〃	#3	1	250	〃
7	ナッツ	#8~13 各1本	6	600	〃
8	ナッツ・キー		3	150	
9	スノーバー		4	1,250	
10	クイックドロー		6	660	
11	ユマール		1	300	
12	テープシュリング	幅20×長さ200cm	3	480	(自作)
13	〃	幅20×長さ160cm	3	390	(自作)
14	〃	幅8×長さ120	6	360	ダイニーマ
15	〃	幅8×長さ60	6	180	〃
16	カラビナ	安全環付	6	420	
17	〃	安全環ナシ	6	300	

(6) 日程、メンバー及びその変更

①当初計画

日程

第9日 6月28日(金) Lupine Meadows TH へ (Platform または Meadows CS 泊)

第10日 29日(土) Lower Saddle へ (同泊)

第11日 30日(日) Grand Teton(13770)登頂、往路を戻る Lipine Meadows TH へ

メンバー

大塚(リーダー)、秋田、中道

行動時の負荷

1人当たり 23 kg

②メンバーの変更

「全員登頂の山」の後、秋田が本人の意向で離脱した。

③コース・日程の変更

ア.「全員登頂の山」終了(6月26日)後、グランド・ティートン(以下,GT と略す)を所管する Jenny Lake Ranger Station を尋ねると、雪は無く easy との話である。

イ. 念のため翌日(6月27日)にもう一度確認に出かけたところ、今度はまったく逆の話である。

概念図に図示しながら

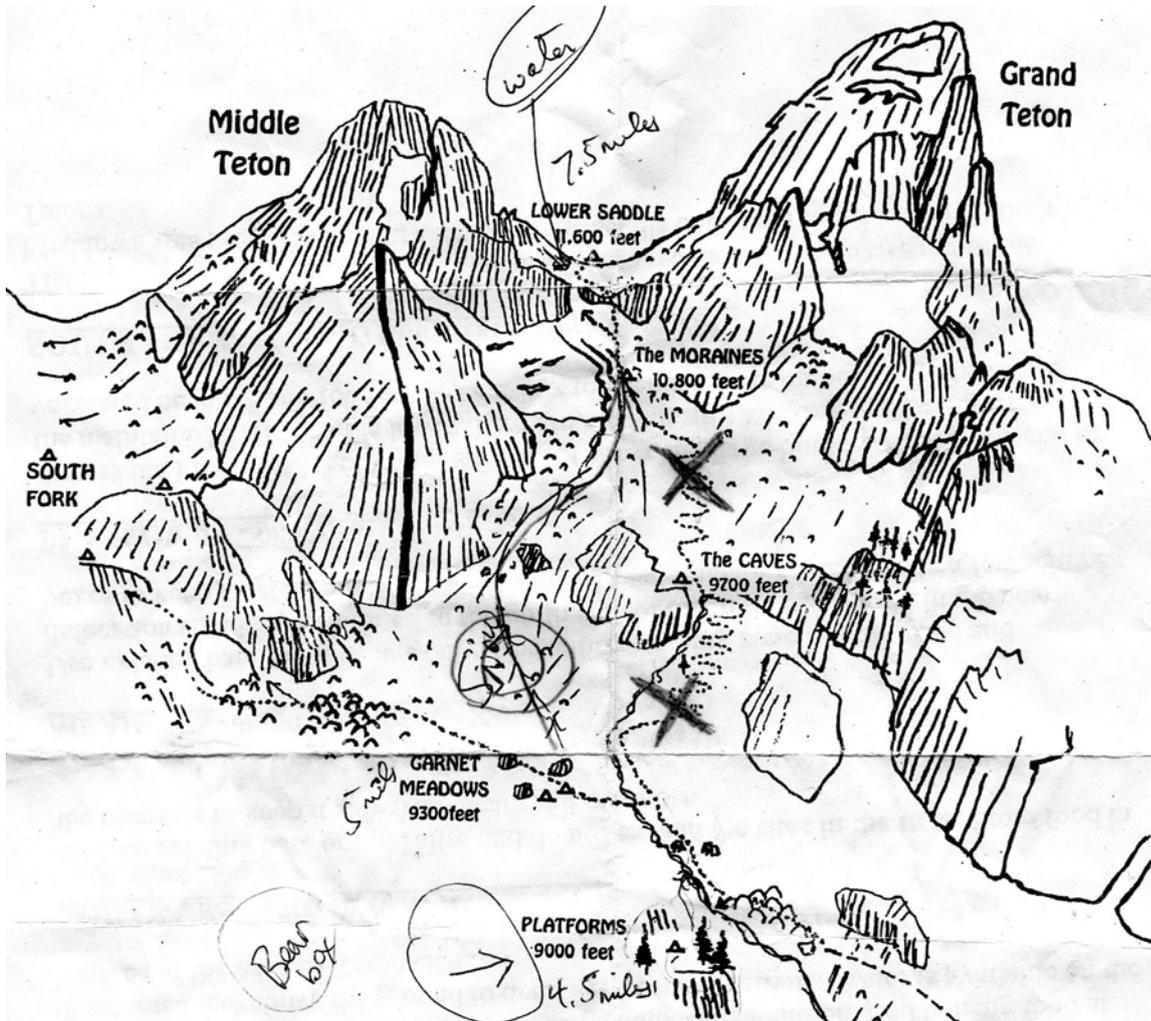
Lower Saddle までについて

- (ア) 残雪が多い
- (イ) 夏道は危険である
- (ウ) 中央の岩稜も危険である
- (エ) 左の壁寄りの雪壁を登ると良い
- (カ) 下山時には他に泊まることも許されるだろうが、登りでは登録した **campsite** に必ず泊まること、
- (キ) lower saddle の水はそのまま飲める

Lower Saddle からは

- (ア) upper saddle から上は雪壁でまだ通れない
- (イ) ガイドは Wall Street から Exam Ridge に抜けている
ただし coulier には雪がある

と詳細に説明を受けた。



グランド・ティートン概念図

(ウ) これを踏まえ

Exam Ridge については研究していないので、また雪壁を登れないと判断し目標を Upper Saddle までとする。

これにより懸垂が無くなるのでロープを1本にするとともに、ガチャ類も削減する、ただし2人になったことからゆっくりペースの日程とする、

こととし

6月28日(金) PLATFORMS CS 泊

29日(土) Lower Saddle 泊

30日(日) Upper Saddle 往復後 Lower Saddle 泊

7月1日(月) 下山

とした。

(7) 実行第1日(6月28日) 快晴

4時 起床

5時前 発

Lupine Meadows Trailhead の駐車場には結構な数の車が留まっている。

5 : 4 0 (2065) 発

重荷にも関わらず快調に歩き、

8 : 5 4 (2566) Surprise Lake 分岐



このすぐ上に Ranger から教えられた飲料可の水が流れている

眺望もいい。



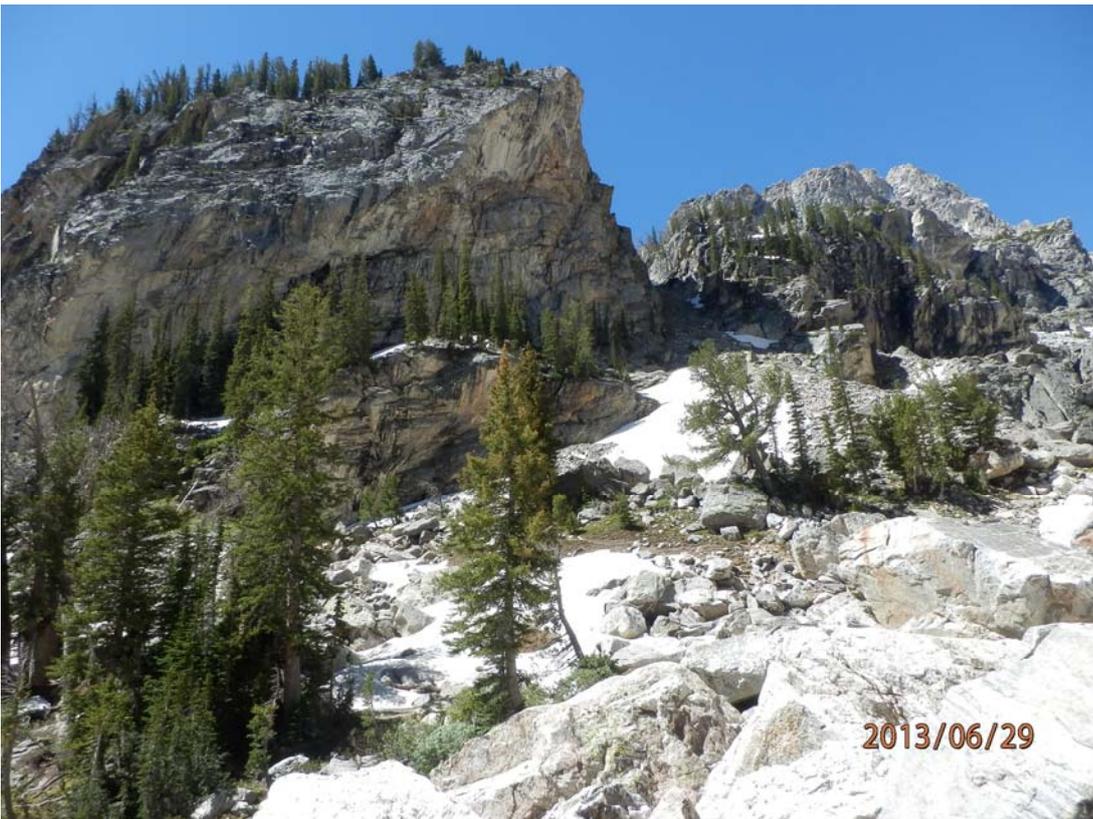
撮影 大塚

10:20頃(2732) Platforms CSに着く。



撮影 大塚

時間が早いのでもう1つ上まで行きたいところである。
加えて融雪水で溪流の水量が多く、指定のCSは見えるが渡れない。



撮影 大塚

12:06 (2735) 大岩の間を縫って1時間ほどかけて渡渉点をやっと探す。



撮影 大塚



撮影 大塚

大岩峰の下の、眺望の良いCSである。



湯を沸かして昼食を摂り、昼寝し、蚊に噛まれながらバーボンのお湯割りを飲む。

(8) 第2日(6月29日) 晴れ、曇り

今日の降水確率は20%であるが、明るく明けた。



7 : 0 0 (2737) 発

7 : 2 0 (2741) 渡渉を終わる

Saddle 方向が見えてくる。



8 : 0 5 (2 7 9 3) Meadows



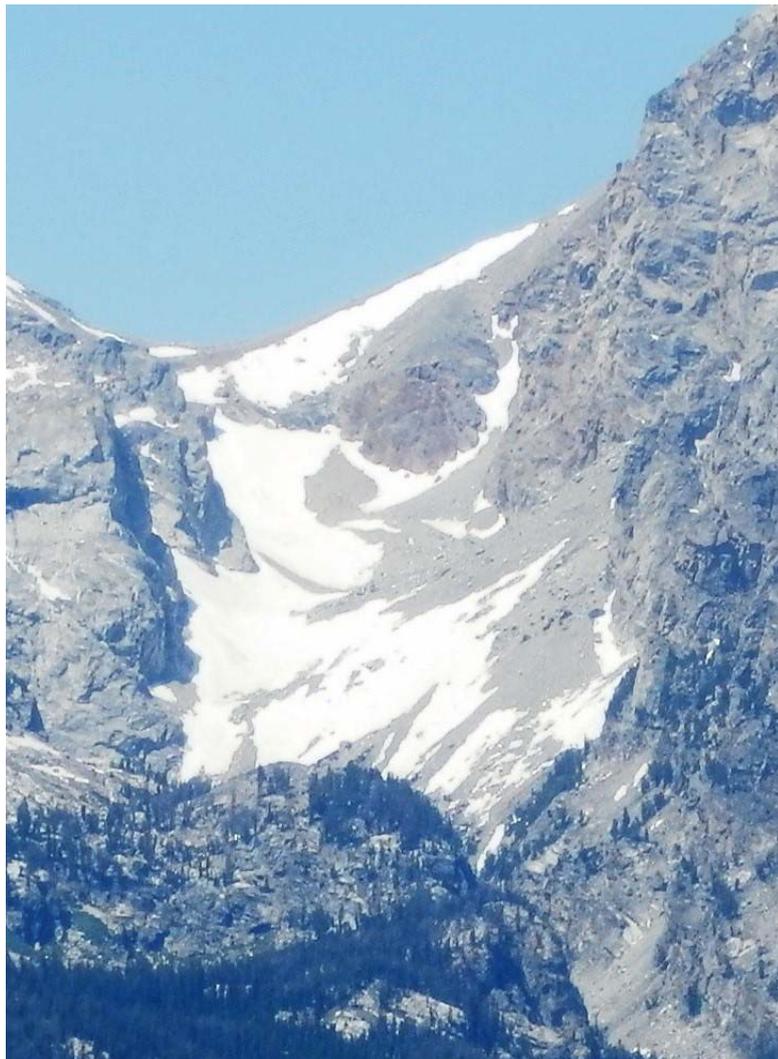
1 張ある。CS を左上奥に進み、
8 : 5 4 (2872) テントが張れる大岩の下で休む。

大塚が体調不良のため、Lower Saddle に泊まって Upper Saddle を往復することは無理と申し出たことから、もとより 1 人では Upper Saddle より上には行けないので、ここから Lower Saddle を往復することに変更する。

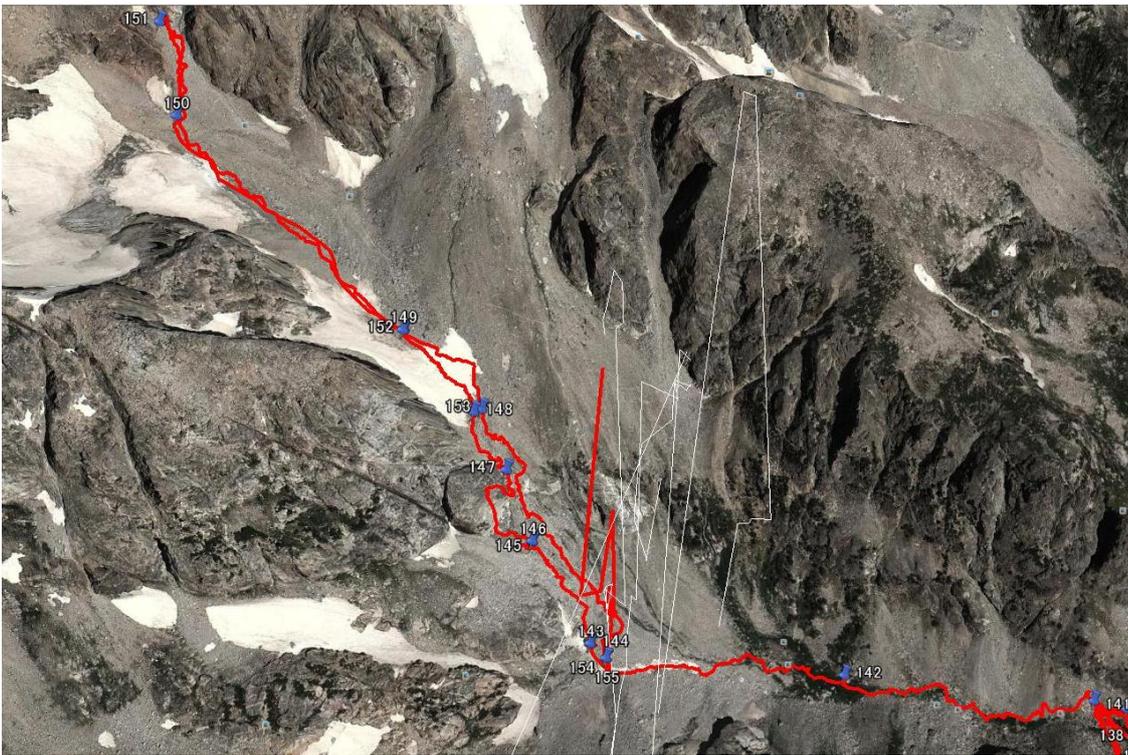
Lower Saddle へのルートは、次の 3 日後 (7 月 2 日) の平野部からの写真がよく分かる。



拡大すると



これを GPS 軌跡と重ねると(ただし 7 月 8 日、雪が消えている)



一部拡大すると



すぐ雪面に乗る。

9 : 3 4 (2949) 旗 155 ロープを繋ぐ。

まず X がビレイして私が登る。雪が柔らかく、傾斜が相当に急なので、1 歩ずつ高くステップを切り、足を大きく上げて乗せるので、時間がかかる。途中スノーバーを 2 ヶ所中間支点とし、ロープ一杯でやっと岩を見つけるが、特に用意した長いシュリングでも十分でないので、ピッケルで補う。

次も同じようにし、3 ピッチ目、4 ピッチ目は釣瓶にした。釣瓶ではスタンディング・アックス・ビレイの脚がしびれてしまったが、4 ピッチで核心部を通過した。



撮影 大塚

1 1 : 3 0 (3063)



この途中右の岩稜をガイドが登っているのに気づく。

雪が消え、この岩稜(夏道ではない)が一時的に利用されていたのだ。融雪のスピードが速く、Ranger には日々の情報が伝わっていなかったのだろう。

1 2 : 4 0 (3131)

1 3 : 1 4 (3207)

ここから Lower Saddle が良く見える。



もはや下山のための余力しか残っていないという大塚にここで待ってもらうことにして Lower Saddle を独り目指す。

1 4 : 2 1 (3426) ショートカットをねらい、右リッジをつめる。





急に黒雲が覆い被さり、怖くなり下山する。結果としてこのリッジをつめるのは良くなかったので、今
思うと黒雲様様である。

15:00 大塚と合流

少し急な雪量を慎重に降り、

15:25 (3156) 岩稜に取り付き、これまた慎重に降る。

16:29 大岩に戻る。

パッキングを始めようとしたら、軽い日射病か？湯あたりしたような感じになり、日陰に入り、大塚が用意してくれた雪を巻き込んだタオルで冷やし、大事に至らなかった。有難い。

すでに10時間近く行動している。

さてどうするか。少し思案したが、降りようということになった。

17:12 発

17:33 Meadows を離れる。



18:15 Platforms

驚いたことに昨日午前中には夏道をふさいでいた雪が融け、道が出ている。



陽の移りにより変わる景色を愉しみながら、のんびり降る。しかし長い。





19:00 Surorise Lake からの路と合する。
ここの水は美味かった。



21 : 25 駐車場

寝静まった BC に戻り、BC のロッジにある”The Dead Mans Bar “に行き、閉店までゆっくり飲む。

(9) 評価

①残雪が多かった。

Lower Saddle より上には岩の間に残雪があることは想定していたが、Lower Saddle までにこれほど残雪があるとは想像できなかった。

帰国後の 7 月 6 日の Google Earth にはほとんど雪が見られないことから、1 週間早かった。

②ロープパートナー大塚の完全復活を喜ぶ

一昨年 of MuztagAta、昨年 of Huayna Potosi と一緒に計画しながら、それぞれ腰、首の骨に損傷を受け、途中離脱した。今回はこれまでのような事故もなく、体調を整え臨んだが、出発間際の大腸検査の無理が残っていたようである。

しかし 4 ピッチの雪壁を登り、23kg の重荷を担いで 14 時間余行動したのは見事な回復である。構想段階から実行まで一緒できたことをうれしく思う。